

山行報告 阿寺山 山スキー

【山 域】越後山脈

【ル ー ト】阿寺山

【登山方法】山スキー

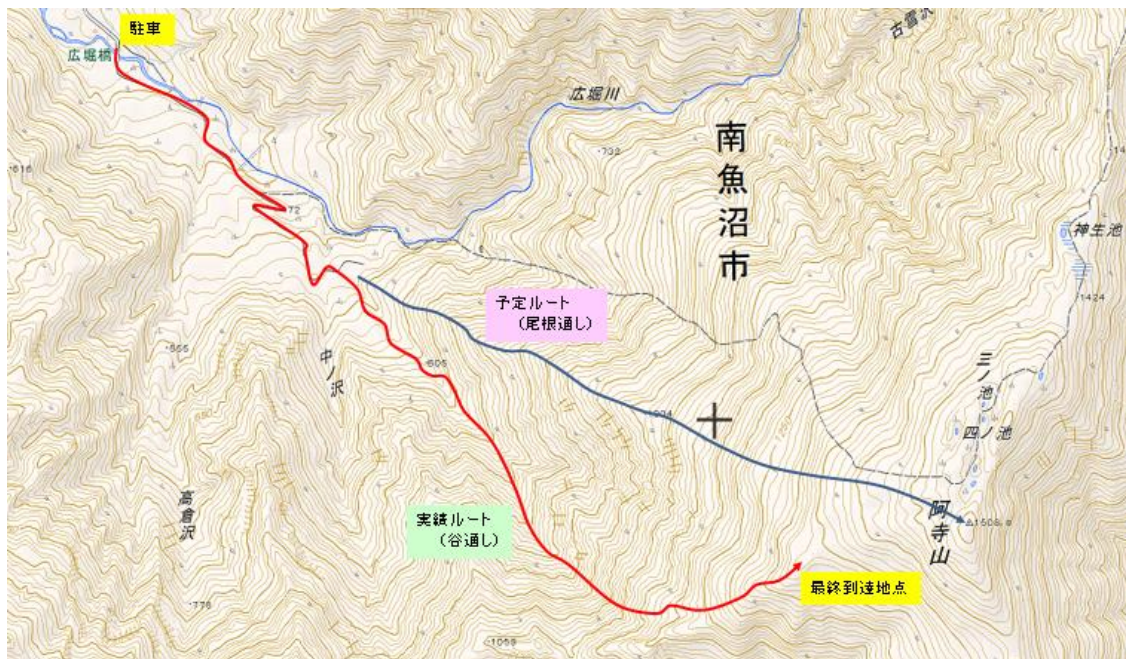
【メンバー】CL吉川、柘植、庭田、薄井

【行 動 日】4月14日

【行 程】土気 2:20ー市川 ICー関越道-六日町 ICー広堀橋 7:20ーマゴタイ沢二俣 9:30ー1100m

付近 11:30ー1340m 付近の台地 12:20/12:35 滑降ー1100m 付近 12:45ーマゴタイ沢二俣

1:35ー広堀橋 15:10ー風呂(金城の里)ー六日町 ICー関越道経由ー帰葉



【内容】

今週末は大荒れの天気予報が出ていたが、直前に14日は好転したので、早朝阿寺山を目指した。高速道路から見えるスキー場の下部はまったく雪はなく、黒々している八海山をみて不安になる。広堀橋に到着し、林道に雪があるのにほっとした。身支度をしていると一台の車が到着し、要領よく身支度して林道に消えて行った。後を追うように我々も出発する。林道はかろうじて雪を繋いで進み、取り付け地点まで進めたが、尾根末端に雪はなく、どうしたものか？ 先行者のトレースはマゴタイ沢の方向を向いていた。我々もトレースを追ってみることにし、マゴタイ沢の右岸から左岸に渡渉し、腐りかけの雪面を攀じ登り、暫くシール登行して、また、雪解け水の流れの中の飛び石伝いに右岸に渡る。スキー靴で飛び石を越えるのには難儀した。標高700mの二俣の左沢はデブリで埋まっていた。トレースは右俣に進んでいる。我々の取り付けべき尾根はかすかな雪しか付いていない。GPSで現在地を確認し、先行者のトレースはマゴタイ沢を詰めて、阿寺山を目指しているようだと判断した。皆で協議し、我々もこのルートを行けるところまで行ってみることにした。大きなデブリが二箇所あったが、その他さほどの緊迫感はなく、クトー(スキーアイゼン)を付けて進み、標高950m辺りからツボ足で急な斜面を150m位高度を上げる。Uさん、Nさんは元気にステップを刻んで早い事！ 傾斜が緩んだところで休憩していたら、先行者が華麗に滑り込んできた。トレースのお礼を言うと、「良く来るが、例年より雪解けが早いです」と言って、急斜面にドロップインして消えた。シール登行にて暫く進むと展望が開けた。頑張ったこの展望は素晴らしく、眼下にしゃくなげ湖、巻機山、ネコブ山などを望み感動した。

この先、オープンバーンの登りはザラメで、クトーの効き目が悪く難儀した。クトーを付けないTさんは、脚力にも言わせながら頑張っていた。1340mの台地に出て、やっと阿寺山を望むことができ、こみ上げるものを感じたが、何やら山頂が遠く感じてしまった。すでに12時20分、復路の急斜面の滑降や渡渉の事を考えると、ぎりぎりの行動はとりたくないので、今回の阿寺山の山頂は標高1340mの台地とし、みんなに納得してもらい、宿題を残して下ることにした。



最初は雪のない林道を少し歩く



やがて雪が出てくる、いい天気だ



沢を渡渉して対岸に這い上がる



急斜面を恐々下降する



左俣はデブリの山でまずそう



右俣も似たようなものだが先行パーティーのトレースあり



左俣はやがて開けて快適な登高となる



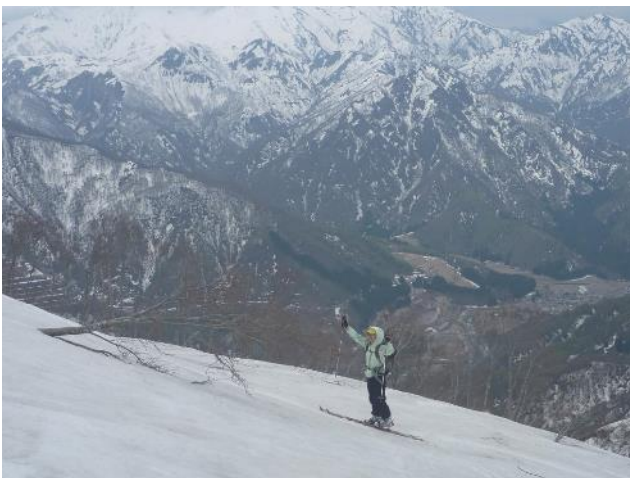
上部は急傾斜となり、ツボ足で登る



もう少し頑張れば傾斜は緩むはず



再び板を履くが、クトーをつけないTさんは苦戦



やがて展望が開けてバンザイのNさん



懐かしのネコブ山(左中央)と利根川水源の山々

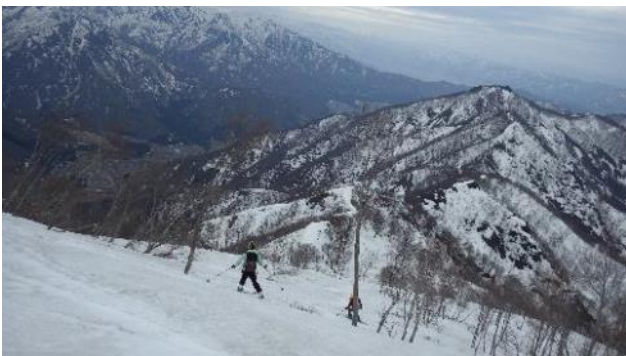


本日の最高到達地点(背後は八海山)



左が阿寺山ピーク、あとわずかが帰りを考えてリーダーの決断

十分展望を楽しみ、いざ滑降！よく滑るザラメに気持ち良く滑降！皆、それぞれオープンバーンのゲレンデを楽しんでいた。登行では目立たなかったTさん、本人曰く、今シーズンのゲレンデスキーでの練習の成果だとか！生き生きしていました。ツボ足で登った急斜面は横滑りで降り、その後は気持ちよく滑降できた。厄介な渡渉は、沢に下りる崖の雪が朝より腐っていて難儀であった。林道を滑り駐車地点に無事帰還した。



大展望を眺めながら滑降開始



苦勞して稼いだ標高をあっという間に滑り降りる



上部の楽しめる緩傾斜地帯



急傾斜帯はとてもターンできず、横滑りで降りる



もう少し降りれば安全地帯



広いバーンに入ると各人思い思いのシュプールを刻む



楽しい時間はあっという間に終了し、お約束の渡渉



里では桜が満開でした

同行のみなさんを引き込んで、山スキーのバリエーションを大いに楽しみました。
ありがとうございました。 車窓から見る満開の桜がとても綺麗でした。

吉川（記）